

「ASEANのASEAN化」という言葉が、ASEANの発展を支える「知」の確保へ、ASEAN域内の社会・経済発展を支える工学系人材を育成するために。各国と学術面での結びつきも強い日本が取り組んでいるのが、大学間ネットワークの構築だ。ASEAN共同体の人的なつながりを強化するためにも、その重要性は増している。

ASEAN域内の社会・経済発展を支える工学系人材を育成するために。各国と学術面での結びつきも強い日本が取り組んでいるのが、大学間ネットワークの構築だ。ASEAN共同体の人的なつながりを強化するためにも、その重要性は増している。

ASEAN域内の社会・経済発展を支える工学系人材を育成するために。各国と学術面での結びつきも強い日本が取り組んでいるのが、大学間ネットワークの構築だ。ASEAN共同体の人的なつながりを強化するためにも、その重要性は増している。



ASEANのASEAN化」という言葉が、ASEANの発展を支える「知」の確保へ、ASEAN域内の社会・経済発展を支える工学系人材を育成するために。各国と学術面での結びつきも強い日本が取り組んでいるのが、大学間ネットワークの構築だ。ASEAN共同体の人的なつながりを強化するためにも、その重要性は増している。

ASEAN域内の社会・経済発展を支える工学系人材を育成するために。各国と学術面での結びつきも強い日本が取り組んでいるのが、大学間ネットワークの構築だ。ASEAN共同体の人的なつながりを強化するためにも、その重要性は増している。

ASEAN域内の社会・経済発展を支える工学系人材を育成するために。各国と学術面での結びつきも強い日本が取り組んでいるのが、大学間ネットワークの構築だ。ASEAN共同体の人的なつながりを強化するためにも、その重要性は増している。



東京電機大学との共同研究プロジェクトで、地雷探知機の回路を改良するカンボジア工科大学の学生

石川教授は2001年から約5年間、科学技術振興機構(JST)の地雷探知除去プロジェクトのマネジメントを担当した経験を持つ(写真は開発機器の評価試験の様子)

SEED-Netを活用して、タイのチュラロンコン大学を卒業した学生たち。これから、それぞれの分野での活躍が期待される



飲料水のヒ素汚染が問題となっている地域で、水質調査を行うカンボジア工科大学のブンチュン博士(左)



ヒ素汚染の除去システムの導入を喜ぶ地元の子どもたち

発展を支える 優秀な「知」の確保へ

ASEAN域内の社会・経済発展を支える工学系人材を育成するために。各国と学術面での結びつきも強い日本が取り組んでいるのが、大学間ネットワークの構築だ。ASEAN共同体の人的なつながりを強化するためにも、その重要性は増している。

大学の知識や技術を 地域の課題解決につなげる

「大学のグローバル化」という言葉を頻繁に耳にするようになった。留学生在と机を並べて英語で授業を受けるという光景は、日本の大学でも当たり前になりつつある。特に、ASEAN地域からの留学生の数は、この30年間で約20倍と飛躍的に増加している。こうした中、日本とASEAN

の大学間ネットワークを強化することで、域内の持続的な発展につながるよう2001年に発足したのが、「アセアン工学系高等教育ネットワーク(AUN/SEED-Net)」だ。「ASEAN地域では、経済の成熟化や賃金の上昇に伴って成長が停滞する。中進国のわな」に陥ることが危惧されている国もあります。そうした国が発展を続けるためには、付加価値を生み出す高度人材の育成が重要



from カンボジア
Cambodia

